

Society 5.0時代のヘルスケアⅢ

～オンラインの活用で広がるヘルスケアの選択肢～

2022年1月18日

一般社団法人日本経済団体連合会

目次

I . はじめに	2
II . 全体像	3
III . 各論	4
1. 健康管理・増進		
2. 診療		
3. 調剤・服薬指導		
4. 手術		
5. 介護		
6. 治験		
IV . 基盤	16
1. ラストワンマイル		
2. データ活用		
3. 国民理解の醸成		
V . おわりに	17

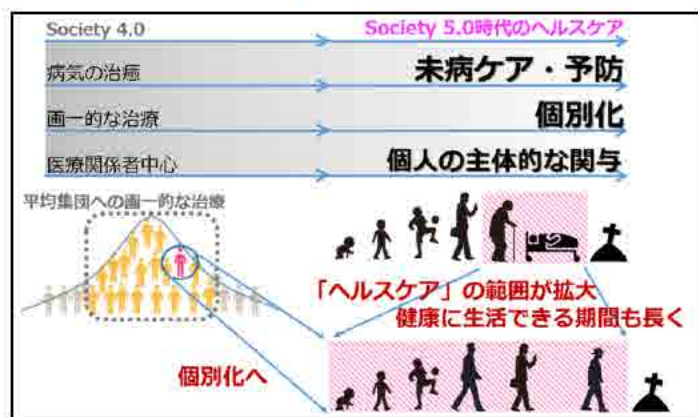
I. はじめに

2018年

提言「Society 5.0時代のヘルスケア」

デジタル技術とライフコースデータの活用

未病・予防段階からの個別化された
個人主体のヘルスケア



2020年

提言「Society 5.0時代のヘルスケアⅡ」

新型コロナで顕在化したDXの遅れ

足元のコロナ対策と中長期的に
必要なアクション



新型コロナは、わが国の遅れていたヘルスケア領域のDXを加速する契機にも

国民の“健康”に対する
関心の高まり



企業による新たな
ソリューション創出の動き

提言「Society 5.0時代のヘルスケアⅢ」

デジタル技術を活用したオンラインによるヘルスケアに焦点
実現したい姿とそのメリット、必要な施策を提案

Ⅱ. 全体像

オンラインヘルスケアは、ライフコースのさまざまな場面において、これまで十分に満たされていなかった多様なニーズに対する新たな選択肢を提供
オンラインと対面を適宜組み合わせ、より質の高いヘルスケアの実現へ



健康管理・増進



診療



調剤・服薬指導



手術



介護



治験



ラストワンマイル



データ活用



国民理解

基盤



オンライン



さまざまな生活者

対面



1. 健康管理・増進

＜目指す姿＞ スマートフォンのアプリ等のプラットフォーム上で、ライフコースのさまざまな場面において、その時々状況にあった適切なレコメンドが行われ、判断に迷うことなく健康管理ができる。



社会的意義

- データに基づく適切なレコメンドにより、必要なヘルスケアに容易にアクセス
- 個々人の未病・予防に対する意識の高まりと行動変容
- 感染症への懸念や、仕事上の制約等により、医療機関へ訪問できない人の健康診断や健康医療相談の選択肢
- 疾病の早期発見と医療機関への早期受診による重症化予防

提言

- ① オンラインヘルスケアサービスを対象とした新たな認定制度の創設
- ② オンラインヘルスケアサービスを導入・利用する際の費用の助成
- ③ 特定健診におけるオンライン完結型健診サービスの活用

Ⅲ. 各論

2. 診療

＜目指す姿＞ 初診・再診を問わず、また疾患の種類を問わず、医師・薬剤師と相談のうえ、自身の生活スタイルや疾病の状況に応じて、診療から服薬指導・薬の受け取りまで一気通貫でオンライン医療を受けることができる。



予約



問診



診察



服薬指導



さまざまな生活スタイル
の患者



薬配送



記録管理



会計

社会的意義

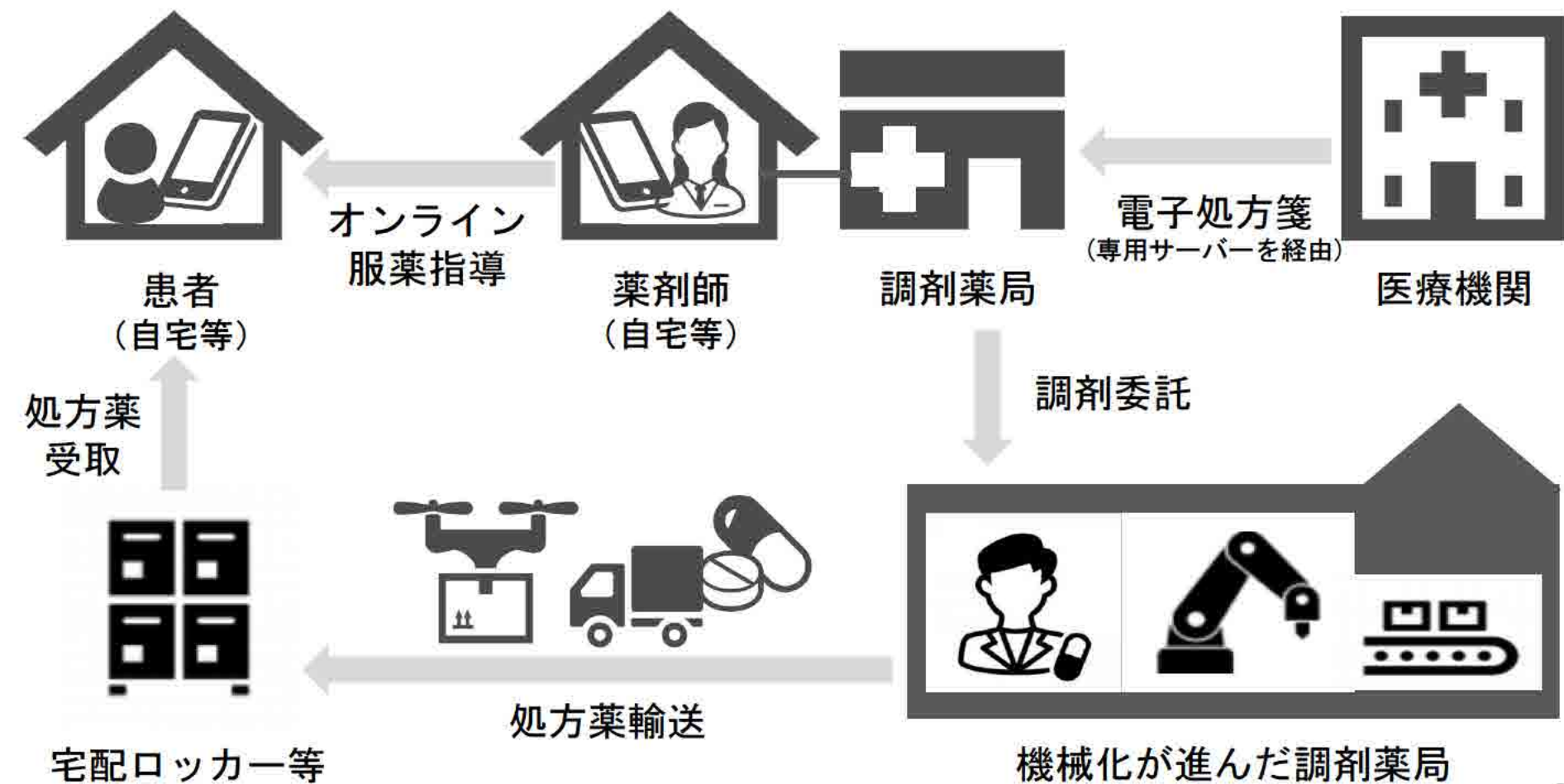
- 診療待ち時間の短縮や、通院負担の軽減、医療従事者の負担軽減を可能とし、国民の医療へのアクセスを向上
- 対面・オンラインの組み合わせや、医療アプリ等の活用で、患者一人ひとりのニーズに寄り添った、より質の高い医療の提供
- 難病・希少疾病の患者の適切な診断や治療

提言

- ① オンライン診療の特例措置の恒久化
- ② オンライン診療の診療報酬を対面診療と同等水準に評価
- ③ D to P with DやD to P with Nの評価
- ④ オンライン診療前相談においてヘルスケアアプリ等の情報を活用
- ⑤ 医療アプリの早期承認制度の新設

3. 調剤・服薬指導

＜目指す姿＞ 薬局は、店舗毎の特徴を活かした機能分化・連携を強化し、対物業務の効率化を図る。薬剤師は、専門性を活かした対人業務に集中し、患者に寄り添った付加価値の高い服薬指導を実施する。



社会的意義

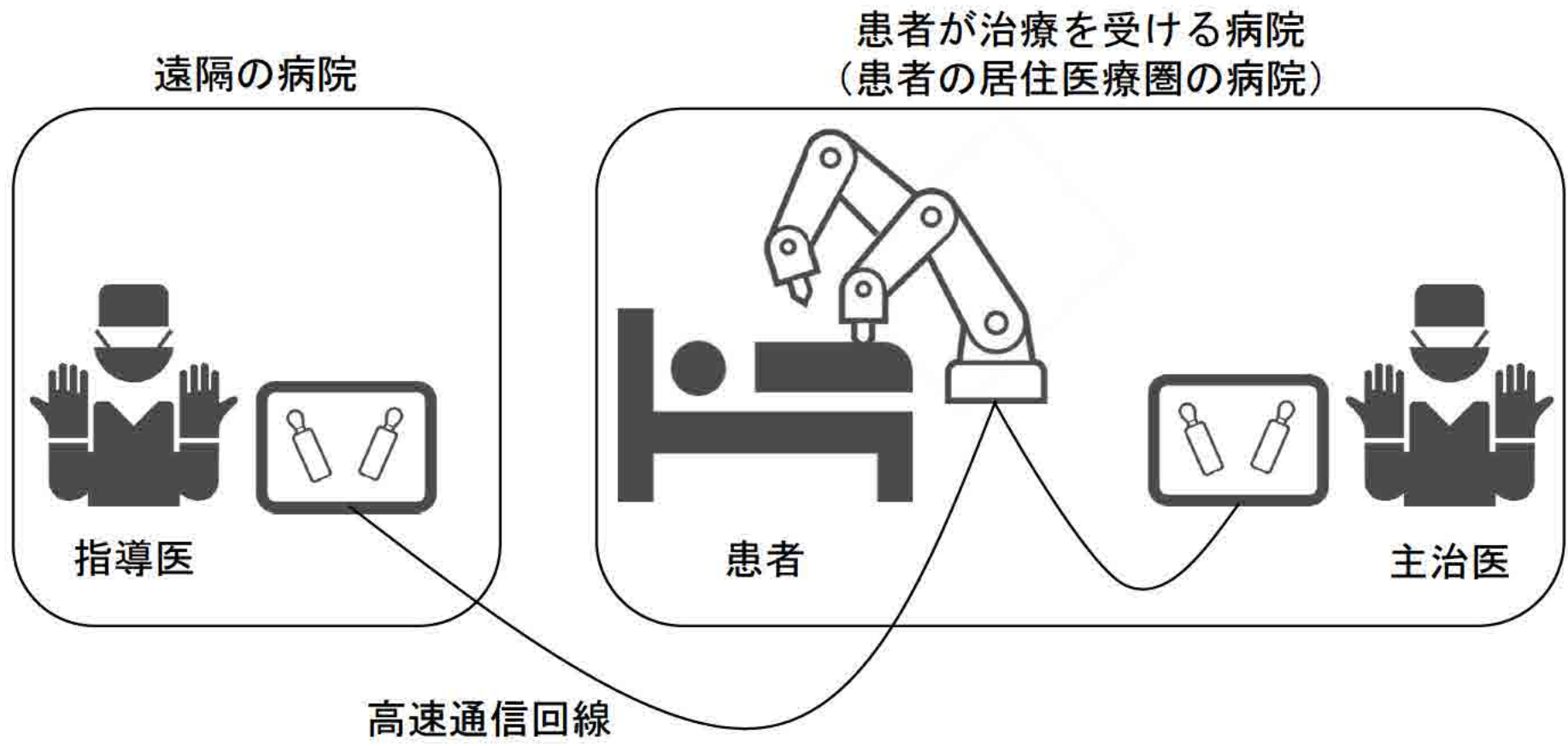
- オンライン診療とシームレスに連携した一気通貫のオンライン医療を実現
- 薬局・薬剤師の対物業務が効率化され、対人業務に集中
- 患者は、待ち時間なくより丁寧かつ有用な服薬指導
- 薬剤師は、在宅勤務が可能になり働き方改革
- 一般用医薬品等の購入の選択肢拡大、事業者の物流効率化・負担軽減

提言

- ① オンライン服薬指導の特例措置の恒久化
- ② 一包化を含む調剤外部委託の容認
- ③ 一薬剤師当たりの処方箋40枚規制撤廃
- ④ 薬局外からのオンライン服薬指導の容認
- ⑤ オンライン服薬指導と調剤等の機能に特化した、対面機能を持たない薬局の設置・活用
- ⑥ 電子処方箋の速やかな普及
- ⑦ 処方箋医薬品以外の薬局医薬品や要指導医薬品のオンライン服薬指導の容認
- ⑧ 一般用医薬品のインターネット販売に特化した業態の容認、他店舗や倉庫からの発送の容認

Ⅲ. 各論
4. 手術

＜目指す姿＞ 遠隔医師が術者として手術ロボットを操作し現地医師を支援する「遠隔手術支援」の仕組みが普及し、患者は居住地に関わらず居住医療圏の施設にいながら質の高い手術を受けることができる。



社会的意義

- 地域住民は、居住医療圏で受けられる医療の選択肢が増え、肉体的・精神的・経済的負担が軽減
- 地方に勤務する外科医は、熟練した医師から手術支援、地域病院に勤務しながら継続して手術指導
- 指導医は、手術指導に伴う長距離移動の負担が軽減され働き方改革
- 地域医療維持に好循環、質の高い外科医療の均てん化、新しい技術の速やかな社会浸透

提言

- ① 従来の手術と同等水準の診療報酬上の評価
- ② システム導入・維持や通信費用負担を軽減する制度設計

Ⅲ. 各論

5. 介護

<目指す姿> デジタルテクノロジーとデータの活用により、要介護者の満足度向上・重症化予防、介護スタッフの業務効率化・負担軽減が進む。より質の高い介護サービスをより効率的に提供できる。



介護予定・記録システム
による業務管理



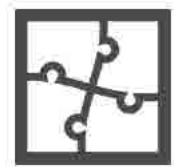
見守りセンサー
による夜間常時見守り



生活・医療データ分析
による科学的介護



見守りロボット
によるコミュニケーション



介護業務支援プラットフォーム
によるサービス連携・データ一元化

要介護者の
満足度向上・重症化予防



介護スタッフの
業務効率化・負担軽減

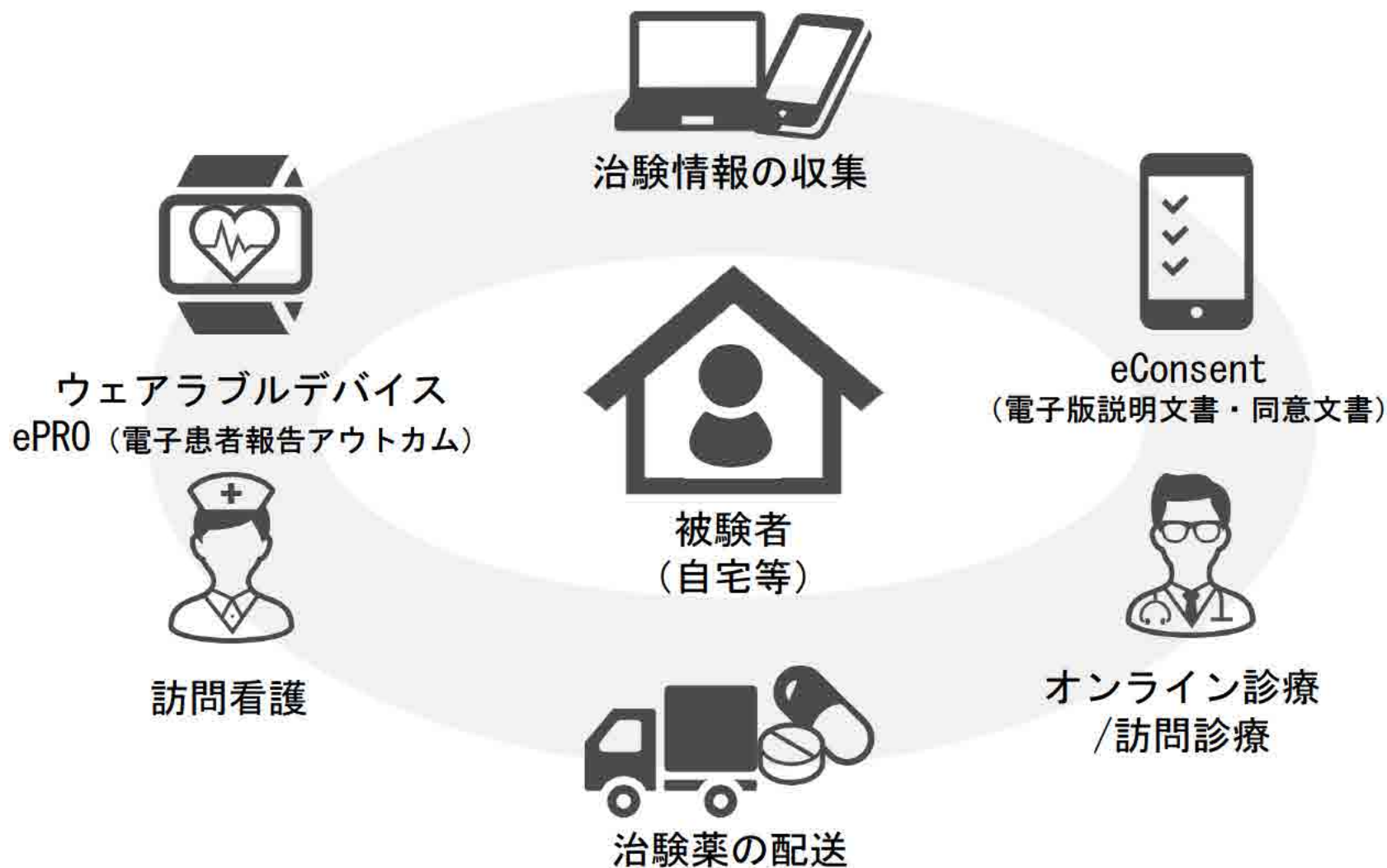
社会的意義

- 介護の質を落とさずに介護業務が効率化
- 将来わが国で必要とされる介護職員数を確保
- 介助者の身体的・心理的負荷の軽減
- 介護の専門性を高め、やりがい・魅力が向上
- 利用者の異変に早期かつ適切に介入することが可能となり、重症化予防や入院抑制

提言

- ① 介護事業所で使用するデジタルデバイスの標準化
- ② テクノロジー活用を積極的に評価する新たな介護品質評価基準の策定
- ③ 介護施設人員基準3:1の見直し

＜目指す姿＞ オンライン診療やデジタルデバイスなどを活用し、被験者が医療機関に来院せず、自宅等にいながら必要な診療や評価・検査を実施できる治験（DCT）の手法により、被験者は居住地に関わらず治験に参加することができる。



社会的意義

- 治験実施医療機関が自宅等の近くにない被験者や、仕事の都合や身体的な問題で定期的な通院が困難な被験者も治験に参加可能
- 被験者を集めることが困難で実施を断念していた治験も実施可能
- 短期間に治験に参加する被験者を集めることができ、開発期間が短縮し、患者により早く薬が届く

提言

- ① 治験薬保管施設(デポ)から被験者宅等への治験薬直接配送を容認
- ② DCTにおける訪問看護の担い手を確実に確保するための環境整備
- ③ 非対面および遠隔での本人確認と同意取得の容認

IV. 基盤



オンラインヘルスケアサービスを利用した患者が、必要な医薬品を確実に簡便に手に入れるための**ラストワンマイル**の整備

- ・ 宅配業者による宅配ロッカーへの処方箋薬の配送
- ・ 新たな医薬品輸送の手段としてドローンの活用



オンラインヘルスケアの活用によって得られるさまざまな健康・医療の**データ活用**の仕組み構築

- ・ 個人が自身のライフコースデータにアクセスし活用できる環境整備
- ・ データの標準化(電子カルテ等)
- ・ 情報銀行における要配慮個人情報取り扱い
- ・ 公的データベースの連結と利活用促進のための環境整備
- ・ 全ゲノム解析等実行計画の着実な実行
- ・ 倫理審査委員会の質の均てん化



オンラインヘルスケアに対する**国民理解**の醸成

- ・ 国民一人ひとりのコンピテンシー向上が不可欠、産官学医が一体で意義・メリットと受益者負担についての丁寧な説明と周知

V. おわりに

- オンラインヘルスケアや医療データの利活用を含むヘルスケアDXは、高齢者の健康寿命の延伸や医療の高度化・効率化といった**社会課題の解決に必要不可欠**である
- ヘルスケアDXは、わが国が**世界を牽引する可能性**のある有望な分野のひとつである
- オンラインと対面を柔軟に組み合わせた新たな形の利便性の高いヘルスケアの実現は、「すべての人々の健康な生活を確保する」という**SDGs目標の達成に貢献する**